

石川県における中国人留学生に関する調査 - 私立大学文系学部生と国立大学理系院生の比較分析を通して -

宮崎 悦子

I. 問題と目的

近年、石川県内において中国人留学生が急増しており、その数は、2000年332人、2001年436人、2002年568人、2003年677人、2004年804人となっている¹。2004年度のデータでは、石川県の留学生全体に占める中国人留学生の割合は、全国平均である65%より高く²、73%である。2001年以降に中国人留学生が急増した背景として、次の2点があげられる。一つは、県内のいくつかの私立大学文系学部において、中国の大学と協定を締結し編入制度を設ける、あるいは現地入試を行う等、積極的な受け入れ活動を展開していることである。もう一つは、中国において経済成長や一人っ子政策によって進学競争が激化していることである。

このような状況を反映し、本学の大学院を志望する私立大学文系学部生（以下、私立文系学部生とする）の数が数年前から増えている。筆者の研究室にも電子メールを中心として大学院入試や研究生制度に関する問い合わせが数多く寄せられ、その数は例年と比べて数倍以上である。しかしながら、その学生たちはこれまで本学で受け入れてきた留学生と比べて留学目的や経緯が異なり（後述）、大学院が研究機関であるという認識が弱いと見られるため、スムーズに大学院に入学し、学位を取得することが難しいケースも生じている。

従来、金沢大学の中国人留学生は大学院生がほとんどであり、その中でも理系学生が多数派を占めていた。本学では留学生の生活実態調査を定期的にも実施しており、理系大学院生（以下、国立理系院生とする）は何度も調査対象となっているためその実態が明らかになっている。本稿では、この国立理系院生と私立文系学部生を比較することで、留学経緯・生活状況・希望する進路などにおける私立文系学部生の実態を明らかにすることを目的とした。そして、それを元に受け入れ側における今後の教育指導と対応のために参考になる課題を明らかにする。なお、県内全体の中国人留学生のみを対象とした調査はこれが初めてである。

II. 手続き

【実施方法】

金沢大学で定期的実施している調査の質問紙等³を参考に、私立文系学部生の実態を把握するのに適切と判断される数項目を入れ、独自に質問紙を作成した。質問は、調査対象者の基本プロフィール、留学先を選んだ理由、経済的側面、留学後に希望する進路など13項目である。質問紙は中国語で作成し、質問紙1部と提出方法について記した用紙を1セットとし、セットごとに封筒に入れたものを800部作成し配布した。留学生には、回答後返信用封筒に入れ返送するよう求めた。

【調査対象者】

中国人留学生が一定数以上在籍している県内7大学（石川県立看護大学、石川工業高等専門学校、金沢大学、金沢医科大学、金沢星稜大学、金城大学、北陸大学 50音順）の留学生800名を対象とし、配布は各大学の留学生関係部署を通して行った。

【調査時期】

調査時期は2005年7月11日～8月10日の約1ヶ月であり、回収数は178、回収率は22.3%であった。

III. 結果と考察

1. 回答者全体の結果

本調査の回答者178人のデータを所属先・専攻別に分類したのが表1である。最も多い回答数は私立文系学部生であり、国立理系院生がそれに続く。

表1 調査対象者の構成

被調査者の構成		文系			理系			不明	無回答
		私立	国立	公立	私立	国立	公立		
学部	計 118人	109	3	1	0	4	1	0	4
大学院	計 56人	4	4	0	2	43	2	1	
合計	174人	121人(68.0%)			52人(29.2%)			1人(0.6%)	4人(2.2%)

1-1 在学段階別

在学段階別留学生数は、学部118人(66.3%)、大学院56人(31.5%)である。学部生118人のうち109人(92.4%)は私立大学に属し、国立は7人(5.9%)と少ない。一方、大学院生56人のうち、国立大学生が47人(83.9%)を占め、私立大学生は6人(10.7%)と少ない(図1-1)。

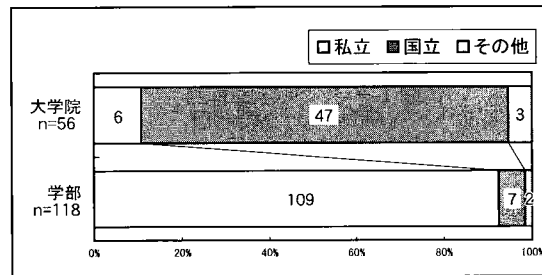


図1-1 在学段階内訳

1-2 専攻と国公立別

専攻別では理系52人(29.2%)、文系121人(68.0%)である。学部・院の割合は、理系では学部5人(9.6%)、大学院47人(90.4%)と、圧倒的に大学院が多い。一方、文系は学部113人(93.4%)、大学院8人(6.6%)で、学部生がほとんどである(図1-2)。また国公立別では、私立115人(64.6%)、国立54人(30.3%)、公立4人(2.3%)となっている。

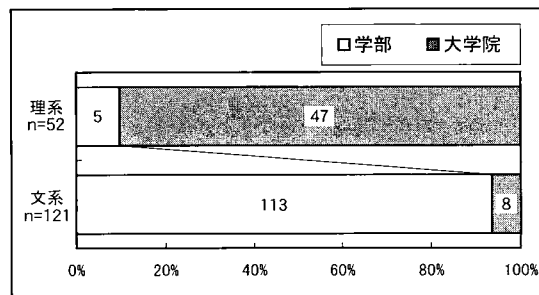


図1-2 専攻内訳

1-3 奨学金

奨学金ありと回答した者は93人(52.2%)で、奨学金無の者は70人(39.3%)、無回答は15人(8.4%)であった(図1-3)。奨学金受給者93人のうち、最も多いのは民間奨学金33人(35.5%)であり、次いでJASSO(日本学生支援機構)奨学金17人(18.3%)、県・市奨学金14人(15.1%)、日本政府奨学金10人(10.8%)、大学独自奨学金7人(7.5%)

となっている。なお、その他は12人（12.9%）と多いが³、これは回答した奨学金の種類とその奨学金の通常の金額が明らかに異なっていたものをここに含めたためである（図1-4）。

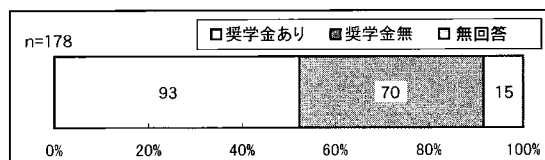


図1-3 奨学金有無

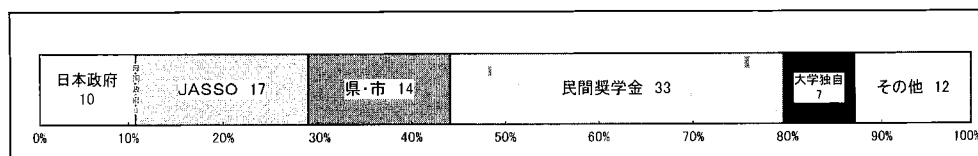


図1-4 奨学金種別（奨学金あり93人の内訳）

2. 私立文系学部生と国立理系院生の比較と検討

研究目的に従い、私立文系学部生と国立理系院生の2グループを取りあげ比較検討する。

2-1 性別と年齢

私立文系学部生（109人）のうち、女性が4分の3を占めている。それに対して国立理系院生（43人）は、女性より男性がやや多い（表2）。私立文系学部生の場合、24歳以下が4分の3を占めており、次いで25～29歳が多い。国立理系院生では逆に、25～29歳が24歳以下と比べてやや多い。

表2 性別と年齢

性別と年齢	性別		年齢			
	男性	女性	24歳以下	25～29歳	30歳以上	不明
私立文系学部生	30	79	83	20	5	1
国立理系院生	25	18	18	25	0	0
合計	55	97	101	45	5	1

2-2 留学の目的

日本留学の目的について、3つ以内の回答を求めた（図2-2）。私立文系学部生は「日本語や日本文化を学ぶため」や「日本の経済・社会システムの勉強」を選んだ割合が高かった。金沢大学における先行調査⁴（留学生センター，2004）によると、学部生

(ここでは文系・理系の区別はされていない) の留学目的は「専門知識を学ぶ」が最も多く、「日本語や日本文化を学ぶため」を目的としてあげたのは、短期留学生となっている。私立文系学部生の留学目的が、金沢大学における学部生よりも短期留学生と似ている点は注目すべきである。また、「将来、日本関連の仕事につくため」が51.4%と半数を占めていることと、「日本の経済・社会システム」を学ぶことが強く関連していると考えられる。言い換えれば、「日本想定型」キャリアプランを指向していることも特徴として指摘できる。一方、国立理系院生の場合は、高い科学技術の習得や学位を目的としている者が多い。

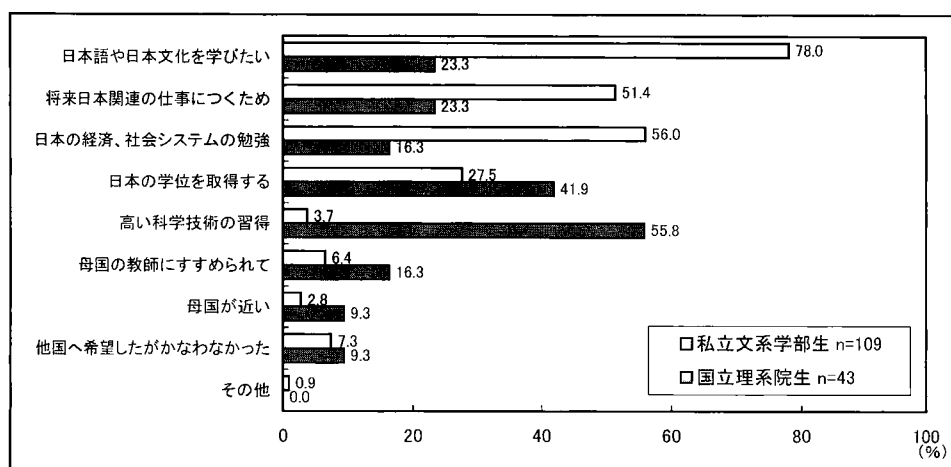


図 2-2 留学の目的

2-3 石川県の大学を選んだ理由

石川県の大学を選んだ理由について、2つ以内の回答を求めた(図2-3)。私立文系学部生の場合は「大学間交流で推薦されたから」が最も多く、半数以上が選択した。次いで「母国の教師のすすめ」が3割弱であった。この回答からは、自分の意志より「協定があるから」、「他者からの働きかけがあった」という要因が強いことがうかがえる。留学生センター(2004)の先行調査との比較によると、「協定校・割り振り」と回答しているのは協定校の留学生を受け入れる短期留学生が最も多く、質問2の留学目的に続いて、ここでも私立文系学部生と短期留学生に類似性が見られる。それに対して、国立大学学部生の大学選択理由で最も多かったのは「家族・周囲の勧め」であり、次いで「希望する専門分野がある」であった。私立文系学部生が、国立大学学部生や理系院生と比べて、主体的に大学を選択する傾向が弱く、専門分野や教員の魅力を重視しない傾向にある。

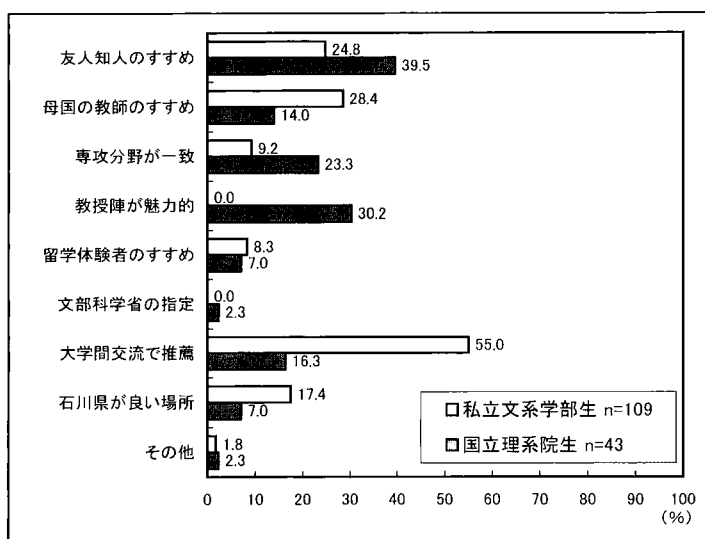


図 2-3 石川県の大学を選んだ理由

2-4 大学情報を知った方法

出身国で日本及び石川県の大学情報をどのように知ったかという質問の回答を求めた(図2-4)。私立文系学部生で最も多かったのは、「友人知人から」であり、次いで「留学経験者から」であり、口コミを重視していることがわかる。国立理系院生の場合は、「インターネット」が最も多かった。この質問は、該当するものをすべて選択してもらったが、私立文系学部生は1つしか選択していない者が多かった。これは、協定校制度による入試負担及び授業料負担の軽減が魅力となっていることが要因と考えられる。一方、大学選択の自由度が高い国立理系院生は、複数から情報を得る傾向にあり、最も多く選択した回答者は4つ選んでいた。この結果から、国立理系院生は多角的かつ慎重に大学院の情報を収集していることがわかる。

2-5 主な収入源とその金額

2-5-1 主な収入源について10項目の選択肢を設け、それに該当する金額を千円単位で記入してもらった。ただし、項目を選択しても金額を記入しなかったデータもあり、有効回答数は、前述の図1-4の数字と異なる。

主な収入源については、私立文系学部生と国立理系院生で選択した人数がそれぞれ多いもの5項目を選んで示した(表2-5-1A)。私立文系学部生は、親兄弟からの仕送りを受けている割合が国立理系院生と比べて有意に高い($P < .01$)。また、仕送りの金額も、前者の平均金額は50,603円、後者(25,000円)の約2倍と多い。

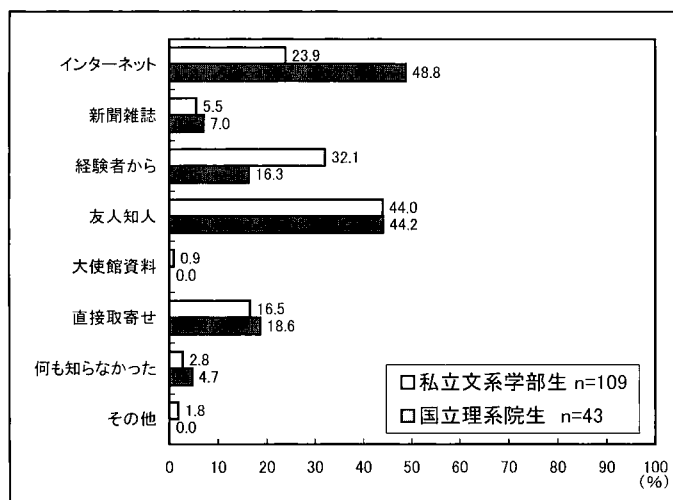


図 2-4 大学情報を知った方法

表 2-5-1 A 主な収入源 (上位 5 項目)

グループ	順位	1位	2位	3位	4位	5位
私立文系学部生	項目	アルバイト	親兄弟仕送	民間奨学金	JASSO	県・市
	人数(109人)	93(85%)	58(53%)	16(15%)	12(11%)	10(9%)
	平均金額(円)	60,613	50,603	31,250	46,667	29,000
	レンジ(万円)	1~15	1~15	2~15	2~5	2~5
国立理系院生	項目	アルバイト	民間奨学金	日本政府	親兄弟仕送	配偶者
	人数(43人)	22(51%)	11(26%)	8(19%)	5(12%)	4(9%)
	平均金額(円)	55,000	126,364	175,000	25,000	67,500
	レンジ(万円)	1~15	3~20	17.5	1~5	2~10

アルバイトをしている割合は表 2-5-1 B で示した。私立文系学部生はほとんどがアルバイトをしており、その割合は国立理系院生より有意に高い ($P < .01$)。

一方、奨学金の受給状況については、私立文系学部生は民間奨学金・JASSO・県市奨学金が中心となっているが、国立理系院生は民間奨学金・日本政府奨学金が多い。奨学金を受給していると回答した93人 (図 1-4 参照) のうち、私立文系学部生は47人 (43.1%)、国立理系院生は20人 (46.5%) であり、割合は後者がやや高いものの、有意差はない。その理由の一つとして、JASSO や石川県の奨学金が各大学に在籍する留学生数に比例して奨学金の枠を決める方式をとっていることが考えられる。また、収入源について「その他」として、「大学独自の奨学金20,000円を受給している」と記入した者が7人いた。私立大学には独自の奨学金制度を設け、成績優秀者にとって比

較的高い率で奨学金を受給できる機会がある場合もあり、このことも奨学金受給率に目立った差がないことにつながっていると考えられる。しかしながら、平均受給金額は、私立文系学部生32,383円（JASSO・県・民間・日本政府の4つの奨学金がある）、国立理系院生123,788円（日本政府・JASSO・民間の3つの奨学金がある）と大きな差があり、後者がはるかに恵まれた状況にあるといえる。私立文系学部生の仕送り・アルバイト率の高さの背景には、私立大学における学費の高さに加えて、受給できる奨学金の低さも関係している。

表 2-5-1 B アルバイトの有無

アルバイト		している	していない
私立文系学部生	人数	93	16
	%	85.3	14.7
国立理系院生	人数	22	21
	%	51.2	48.8

2-5-2 アルバイトの種類

アルバイトをしていると回答した学生は私立文系学部生と国立理系院生合わせて115人であった（表2-5-2）。なお、回答者のうち10人が2つ以上のアルバイトを掛け持ちしているため、アルバイトの数はアルバイトをしている人数より多くなっている。アルバイトの種類で最も多かったのは「飲食店関係」、次いで「販売員」であり、この2つで7割強を占める。私立文系学部生に限った場合、飲食店関係で働いているのは、アルバイトをしている93人のうち71人（76.3%）であり、国立理系院生より有意に高い（ $P < .01$ ）。

国立理系院生のアルバイトについては、飲食店関係以外は「一般事務」と「配達業務」がそれぞれ4人（18.2%）、また「その他」3人（すべてリサーチアシスタント）であり、私立文系学部生より多種類のアルバイトをしている。

2-6 卒業後の進路

2-6-1 卒業後の希望進路について示した（図2-6-1）。私立文系学部生の場合、最も多かったのは、「日本で進学」が52人（47.7%）であり、次いで「帰国して就職」が30人（27.5%）である。その次に多いのは「日本で就職」の15人（13.8%）であるが、先の「日本で進学」とあわせると、近い将来も日本にいる予定である者の割合は61.5%と高く、半数を超えている。一方、国立理系院生の場合、最も多かったのは「帰国して就職」の15人（34.9%）であり、私立文系学部生の希望と異なる。これは、

表 2-5-2 アルバイトの種類

アルバイト職種	人数	一般事務	家庭教師	塾講師	通訳業務	作業員	配達業務	技術関連事務	飲食店関係	販売員	その他	合計
私立文系学部生	93	1	1	0	1	8	4	0	71	15	4	105
	%	1.1	1.1	0.0	1.1	8.6	4.3	0.0	76.3	16.1	4.3	100
国立理系院生	22	4	1	0	0	1	4	2	7	3	3	25
	%	18.2	4.5	0.0	0.0	4.5	18.2	9.1	31.8	13.6	13.6	100

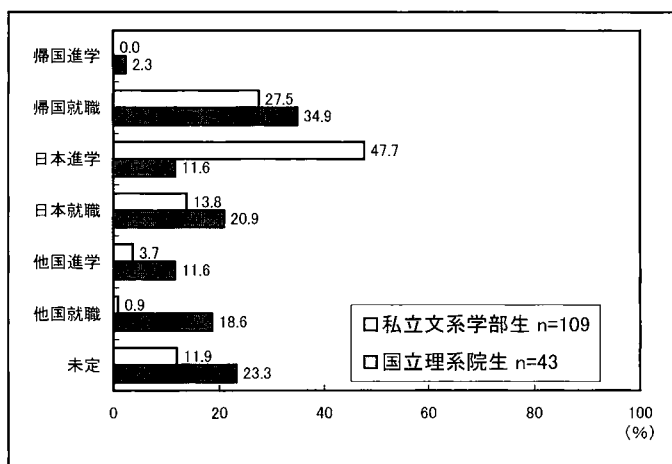


図 2-6-1 卒業後の希望進路

先行調査（留学生センター，2004）と同様である。また，国立理系院生は私立文系学部生より出身国以外での就職の割合が有意に高い（ $P < .01$ ）。しかしながら，「未定」が10人（23.3%），「日本で就職」が9人（20.9%）となっており，国立理系院生においても，従来主流であった「帰国して就職」希望者が減る傾向が見られる。従って，中国人留学生のキャリアプランの変化に伴い，受け入れ側である大学や地域において，新たな対応が求められている。特に，私立文系学部生の日本での進学希望者の多さについて，大学のみならず，行政・地域社会も注目すべきであろう。

2-6-2 将来希望する職業については，私立文系学部生で多かったのは，「商社」49人（45.0%），「通訳翻訳」34人（31.2%），「大学・教育機関」22人（20.2%）である（図2-6-2）。先の質問で「日本で進学」を希望した52人に関して希望する職業を調べたが，多い順番より「商社」の29人（55.8%），「通訳翻訳」の15人（28.9%），「大

学・教育機関」は13人（25.0%）であった。一方、先行調査（留学生センター、2004）では、本学の文系大学院生が希望する職業で最も多かったのは「大学などの教育・研究職」で、その割合は5割弱であった。つまり、私立文系学部生の場合、大学院に進学しても「大学・教育機関」で働く希望はそれほど高くない。

国立理系院生の場合は、「大学・教育機関」の割合が他の項目と比べて有意に高い（ $P < .01$ ）。数値には多少の違いは見られるものの、これは先行調査の結果と同様の傾向が認められる。

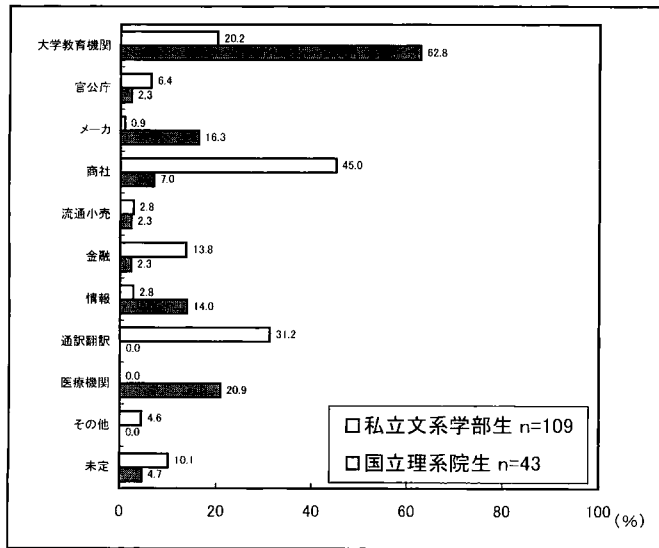


図 2 - 6 - 2 将来希望する職業

IV. まとめと今後の課題

以上のように、私立文系学部生と国立理系院生を比較してきたが、ここでは私立文系学部生の実態を明らかにするために特徴的な点及び今後の留学生受け入れ・教育体制を拡充させていく上で特に重要と考えられる点について以下に記す。

- ①私立文系学部生は国立理系院生と比べて、親兄弟からの仕送りを受けている者及び、アルバイトをしている者の割合が2倍と高く、仕送りやアルバイトは留学の前提となっている。仕送りや、アルバイトに時間を多く割かれることなく学べるよう、奨学金の拡充が望まれる。
- ②私立文系学部生は、主な留学目的として「日本語や日本文化を学ぶため」をあげ

た者が多かったが、これは、本学の協定校から来る短期留学生と同じである。短期留学生を対象とした「日本文化体験型留学」は、「学位取得型」の教育を前提とする学部教育と根本的に異なる。従って、私立文系学部生の留学目的は、専門教育を重視する大学教員側と認識に隔たりがある。今後、私立文系学部で留学生を指導する教員及び大学院修士課程に進学した私立文系学部出身の留学生に面接調査を行うことで、両者の相違を明らかにしていくことが課題である。

- ③私立文系学部生の希望進路は、「日本で進学」が最も多かったが、これは当然大学院修士課程への進学希望を意味する。今回の調査では進学希望の理由を明らかにできなかったが、今後急増が予想される私立文系学部出身の大学院進学希望者の様々な要望や状況、「大学院に何を期待しているか」、「実際に進学先を探せるか」、「進路選択に関わる情報をどのように入手しているか」、また「大学院に入学後困ったことはあったか」、「院修了後の希望進路は何か」といった点を明らかにすることは、本学をはじめ、同じ状況にある他大学において受け入れ体制を整備する上で非常に重要である。例えば、大学院で学ぶために必要な日本語能力や研究能力を育成するための橋渡しの教育や、キャリアプランを考慮した進路・進学指導が、より一層必要とされるだろう。

【付記】本研究は、アイ財団から助成をいただいていた「石川県における中国人・ベトナム人留学生の基礎調査」(財団法人アイ・社会文化推進事業)刊発行、2005年)から、中国人留学生に関するデータを一部使用した。調査票の作成及び各大学への協力依頼にあたっては、アイ財団の吉田誠栄智氏にご協力をいただいた。また、質問紙・調査票の中国語翻訳にあたっては、李培氏(金沢大学大学院経済学研究科留学生)に作成いただいた。本論の執筆の際、苗田敏美氏(金沢大学非常勤講師)に分析をはじめいろいろなお助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げたい。

【参考文献】

- 1 石川地域留学生交流推進会議 2005 2004 2003 2002『留学生交流いしかわ』vol.13～vol.16
- 2 文部科学省高等教育局学生支援課 2005『2004年度 我が国の留学生制度の概要』
- 3 金沢大学留学生相談・指導専門委員会(岸川・中崎・宮崎・八重澤)編 2003『金沢大学2002年留学生生活実態調査報告書』金沢大学留学生センター
- 4 金沢大学留学生相談・指導専門委員会編 2004『留学生を知るためのガイドブック—2002年留学生生活実態調査の分析と考察—』金沢大学留学生センター

A Survey of Chinese Students in Ishikawa Prefecture

— A Comparative Analysis of Liberal Arts Undergraduates and Graduate Students in the Sciences —

Etsuko Miyazaki

In recent years, the number of Chinese students has been increasing rapidly in Ishikawa Prefecture. Almost all of these students are undergraduates majoring in liberal arts at private universities. They differ from graduate students studying natural sciences at the national university in the following ways. 1) Their main purpose of studying in Japan is to learn Japanese and learn about Japanese culture, not to obtain specialized knowledge. In this, their motives are the same as the short-term exchange students at Kanazawa University. 2) They have chosen which university to attend based on recommendations from their professors in China, or because there are existing student exchange programs in which their universities participate, rather than on their own initiative. Compared to undergraduates at the national university surveyed in a previous study, these undergraduate exchange students at private universities do not focus on the attractions of a specialized department or a particular professor when selecting a university. 3) More than 60% of these undergraduates hope to remain in Japan after graduation, either to attend graduate school or to find employment, rather than returning to China immediately. 4) The proportion of these undergraduate students receiving scholarships is roughly the same as among graduate students in the sciences at the national university, but the amount of each scholarship is quite low. Therefore, for these undergraduates it is necessary to receive monthly allowances from their parents and to have part-time jobs.